

## 感染症による出席停止について

学校保健安全法第 18・19 条に定められているとおり、下記の学校感染症に罹患した場合は「出席停止」の扱いとなります。主治医から感染の心配がないと診断されるまでは登校を見合わせてください。お子様に十分休養を与え、早期に治癒されることと、他の生徒への感染を防ぐための処置ですので、ご理解ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

学校への登校を再開する時は、所定欄に医師の記入・捺印を受けた「治癒証明書」(出停様式 1)を担任へ提出してください。

なお、出停様式 1 について、医師による記入を受けることが難しい場合(医師の記入を受けるためだけに再度受診する必要があり、記入が有料である、など)は、保護者の方による記入でもかまいません。受診日・医療機関名をご記入の上、保護者の方の署名・捺印をお願いいたします。

「治癒証明書」(出停様式 1)は、担任から受け取るか、本校ホームページからダウンロード・印刷してください。治癒し登校した後は直ちに手続きを行うこと。

新型コロナウイルス感染症に罹患した場合も、上記の手続きを行ってください。生徒本人が新型コロナウイルス感染症に罹患していないが、感染予防のための出席停止を届出る場合は、「新型コロナウイルス感染予防のための出席停止届」(出停様式 2)による手続きを行ってください。

## 学校において予防すべき感染症の種類及び出席停止の期間の基準

	考え方	感染症の種類	出席停止の期間の基準
第一種	感染症予防法の一類感染症及び二類感染症（結核を除く。）	エボラ出血熱 クリミア・コンゴ出血熱 痘そう 南米出血熱 ペスト マールブルグ病 ラッサ熱 急性灰白髄炎 ジフテリア 重症急性呼吸器症候群（病原体がコロナウイルス属SARSコロナウィルスであるものに限る。） 中東呼吸器症候群（病原体がベータコロナウィルス属MERSコロナウィルスであるものに限る。） 特定鳥インフルエンザ（感染症の予防及び感染症患者に対する医療に関する法律（平成十年法律第百十四号）第六条第三項第六号に規定する特定鳥インフルエンザをいう。） 新型コロナウイルス感染症	治癒するまで  ※感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第六条第七項から九項までに規定する「新型インフルエンザ等感染症」、「指定感染症」及び「新感染症」は第一種の感染症と見なす。
第二種	空気感染または飛沫感染する感染症で、児童生徒の罹患が多く、学校において流行を広げる可能性の高いもの	インフルエンザ（特定鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザを除く。）	発症した後5日を経過し、かつ解熱後2日（幼児にあっては3日）を経過するまで
		百日咳	特有の咳が消失するまで、又は5日間の適正な抗菌薬療法による治療が終了するまで
		麻疹	解熱した後3日を経過するまで
		流行性耳下腺炎	耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫張が発現した後5日を経過、かつ、全身状態が良好になるまで
		風しん	発しんが消失するまで
		水痘	全ての発しんがかさぶたになるまで
		咽頭結膜熱	主要症状が消退した後2日を経過するまで
		結核	病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるまで
第三種	学校教育活動を通じ、学校において流行を広げる可能性があるもの	コレラ 細菌性赤痢 腸管出血性大腸菌感染症 腸チフス パラチフス 流行性角結膜炎 急性出血性結膜炎	病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるまで
		その他の感染症 溶連菌感染症 A型肝炎、B型肝炎 手足口病 伝染性紅斑 ヘルパンギーナ マイコプラズマ感染症 感染性胃腸炎 など	学校で通常見られないような重大な流行が起こった場合に、その感染拡大を防ぐために、必要があるときに限り学校医の判断を聞き、校長が第三種の感染症として緊急的に措置を取ることができる。
	条件によっては出席停止の措置が考えられるもの		

関係法令) 学校保健安全法施行規則第18、19条及び新型インフルエンザ等対策特別法等の一部を改正する法律（2021年2月時点）